

杉戸町立杉戸小学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	教室を学びの空間として整え「主体的・対話的で深い学び」への授業改革を図ることで、すべての児童の学力(自立して学ぶ力)を向上させる。	・学校課題研修を通して、育成を目指す3つの資質・能力の重要性の理解を図る。 ・「教室を学びの空間に」の確認、共通理解・共通実践を徹底する。 ・OPPシートを活用し振り返りの時間を確保する。(メタ認知、振り返りの質の向上) ・教育資源(ICT機器、ドリル、辞書等)の効果的に活用するとともに、その有用性を児童に実感させる。	・授業中の児童の姿(変容) ・児童の振り返り(OPPシート)の内容(変容) ・児童、教職員アンケート「確かな学力」「温かな人間関係」の項目において90%、保護者アンケートにおいて85%達成 ・11月の総合学力調査の達成率、全学年全国平均値以上	B	・授業中の児童の姿から、落ち着いた教室環境の中で集中して学習に取り組む姿が多く見られた。 ・子供主体の学習、授業が増えてきた。 ・学習の終わりに書いた振り返りの内容から、自分の学びをしっかりと見つめ直す児童が増えてきた。 ・「授業内容の理解」アンケート結果 児…93.9%、教…89.2%、保…89.3%(○) ・「温かな人間関係」アンケート結果 児…95.7%、教…89.2%、保…94.0%(◎)	・振り返りの定着、質の向上を目指す、教師側の教材研究、授業準備の時間を確保する。 ・読む読むワークシートの効果的活用を図り、読解力向上に結び付ける。 ・授業改革(主体的・対話的で深い学び)への保護者理解を促す情報発信の工夫・改善を図る。 ・子供一人一人の主体性を引き出す授業改革を推進することで、学びに向かう力を高め家庭学習の充実に結び付ける。 ・家庭学習に関して保護者との共通理解を図る情報発信を充実させる。 ・授業、家庭学習を含めた学習観の変化を保護者、地域へ発信する。 ・更なる学校図書館の充実を関係機関に働きかける。	A	・今後も目の前にいる子供たちが社会に出た時にどのような能力が必要なのか、そうした力をつけるためにはどのようなアプローチが必要なのかを常に念頭に置いて取り組んでいただきたい。 ・高学年が主体的に学び向かっている姿が見られた。 ・授業内容の理解度も高く、取組の効果が出ていると感じた。
	子供たち一人一人が主体的に学ぶための基礎力・学習スキルの育成を図る。 すべての学びの基礎となる国語力(読解力等)の向上を意識した授業、取組を家庭を巻き込んで学校全体で推進する。	・主体的学びの充実に関わり付く基礎力、学習スキルの向上(語彙力、聴く・話す・書くスキル)に向けた取組を推進する。 ・国語力向上に向けた校内研修の充実と授業実践を推進する。 ・保護者との連携、協働による家庭学習の取組を充実させる。 ・司書教諭を中心とした図書部による読書環境の充実を図る。(読書量、読書の質の向上)	・授業中の児童の姿(変容) ・児童の家庭学習の内容(変容) ・児童、教職員アンケート「確かな学力」の項目において90%、保護者アンケートにおいて85%達成 ・総合学力調査の達成率、全学年全国平均値以上 ・RSTの個人正答率全国平均値以上 ・児童の読書に対する姿(変容)、読書量	B	・「家庭学習を進んで行う」アンケート結果 児…84.9%、教…65.3%、保…66.5%(×) ・総合学力調査達成率全国比較(国語4学年○、算数2学年○) ・1月末時点での学校図書館貸出し冊数は13,406冊となっている。学年間の差が若干見られる。読書量はもちろん読書の質の向上をねらった取組を推進してきた。(図書部、司書教諭)			
豊かな心	児童の思いや考えを大切にしたい教育活動を推進する。特に子供たちのアイデアや意欲を引き出せるような学校行事、学級経営を全校で推進することで、児童の非認知能力(自己肯定感)を育成する。	・児童の発達段階に応じ児童の主体性を大切にしたい学級経営を充実させる。 ・特別活動、学級活動(話し合い活動)の充実 ・児童の主体性を大切にしたい日々の授業の実践 ・総合的な学習の時間(MM)を通して、児童の主体性、自己肯定感を高める。	・学校生活における児童の姿(変容) ・授業中の児童の姿(変容) ・児童、教職員アンケート「豊かな心」の項目において90%、保護者アンケートにおいて90%達成	B	・学校生活における児童の姿、なかよしアンケートの結果等からも、多くの子供たちが安心して学校生活を送れていると感じる。 ・「温かな人間関係」アンケート結果 児…95.7%、教…89.2%、保…94.0%(◎) ・「適切な言葉遣い」アンケート結果 児…79.3%、教…65.5%、保…77.4%(×)	・学年の発達段階は踏まえつつ、研修を通して学年間、学級間の差がなるべく少ない学級経営の充実を図る。 ・働き方改革を意識しながら、児童の主体性、豊かな心の育成を図る活動、授業の充実を学校全体で進める。 ・「適切な言葉遣い」「進んであいさつ」については、家庭を巻き込んだ取り組みを検討していく。	A	・基本的な生活習慣の確立が何よりも大切である。子供の心を育てるため保護者への啓蒙、啓発活動を継続してほしい。保護者指導・支援も粘り強く進める必要性を感じる。 ・あいさつに関しては、個人的には少しずつ改善されているように感じている。校内だけでなく通学路、地域でもあいさつを返せるようになってほしい。
	すすんであいさつ、適切な言葉遣い、礼儀正しい行動等、周りの人を意識し、大切にしたい行動のできる児童を育てる。	・「学校でも 家でも 地域でも 気持ちのよいあいさつ」を奨励する。(学校運営協議会・保護者との連携) ・適切な言葉遣いや礼儀正しい行動の共通理解と指導を徹底する。	・学校生活における児童の姿(変容) ・児童、教職員、保護者アンケート「豊かな心」の項目において80%達成 ・学校運営協議会委員、保護者の見取り	B	・「進んであいさつ」アンケート結果 児…81.0%、教…69.0%、保…64.0%(×)			
健やかな体	児童の体力向上、心身の健康維持増進を家庭を巻き込んで、学校全体で推進する。	・運動量を確保した体育授業を実践する。 ・児童にとって楽しい体育授業、体育的行事、諸活動を計画、実施する。 ・家庭への情報発信、協力依頼を年間通して行う。	・授業中の児童の姿(変容) ・休み時間の児童の姿(変容) ・児童、教職員、保護者アンケート「健やかな体」の項目において85%達成	B	・体育の授業では、多くの児童が意欲的に体を動かすことができていた。 ・休み時間については、2極化の傾向が見られる。 ・体育部を中心に様々な運動チャレンジ(立幅跳び、短調跳び、鉄棒等)を実施した。	・体育授業については、研修を通して更なる授業改善に努める。 ・休み時間の外遊び奨励については、呼びかけだけでなく魅力的な環境整備を図る。 ・むし歯治療については、保護者の理解と協力が不可欠であり、更なる情報発信、取組の充実を努める。	B	・コロナ禍前より運動量は確実に減っていると考えるので、単発ではなく継続的に取り組める何かがあるとよい。(学校全体でなくとも学年ごとにチャレンジ) ・年間を通した保護者参加型の保健安全指導教育の計画的・意図的な実践の創意工夫を図る。 ・AIが発達した世界ではフィジカルな意味での健康体が重要になってくると考える。
	保護者との連携を図りつつ基本的な生活習慣を整え、学校全体で健康教育を推進する。	・歯科衛生士等や保健師等の外部講師や養護教諭との連携による保健教育を充実する。 ・家庭との連携、協力によるむし歯予防と早期治療を推進する。 ・全校的な視力低下の実態を把握するとともにその対策を講じる。	・授業中、学校生活における児童の姿(変容) ・児童、教職員、保護者アンケート「健やかな体」の項目において85%達成(正しい姿勢70%) ・むし歯治療率90%達成	B	・「楽しく体育の授業」アンケート結果 児…88.1%、教…96.3%、保…88.6%(◎) ・「休み時間の外遊び」アンケート結果 児…67.2%、教…82.2%、保…71.5%(×) ・「正しい姿勢」アンケート結果 児…76.0%、教…53.5%、保…50.4%(×)			
学校独自	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現しすべての子供たちを自立した学習者へと育成する。	・研修を核として育成を目指す資質・能力3つの柱の再確認と学校全体での共通理解、共通実践を徹底する。 ・日々の授業充実を目指し、相互授業参観等教師自らが授業改革に取り組む体制を整備する。 ・ICT環境充実と効果的、積極的活用を図る。	・授業中の児童の姿(変容) ・教員の研修に取り組む姿勢(変容) ・児童の振り返りの内容(変容) ・児童、教職員アンケート「確かな学力」「温かな人間関係」の項目において85%、保護者アンケートにおいて80%達成	B	・児童主体の学習(授業)スタイルが増えてきたことにより、児童の意識、教員の意識が変わってきた。(受け身の授業からの脱却) ・教員の研修に取り組む姿勢が向上してきた。授業研究会では、児童主体のチャレンジングな授業を実践できた。	・授業改革の目的、意義を全教職員で理解していただくだけでなく、保護者、地域への理解を促す情報発信が必要と感じる。 ・現在不登校となっている児童、保護者との信頼関係の構築、次年度に向けての方向性を検討する。 ・ほっとルームの効果的運営に向けて、今年度の成果と課題を踏まえて、学校全体で取り組む。	A	・校内研修はもちろん、各地での研究会にも積極的に参加しているということで、高い志を持って主体的に研鑽を積んでいることがすばらしい。 ・「個別最適な学び」の実現を目指したICT教育の推進をどう考え、具現化を図っていくか、早急にその具体策を講じる必要性を強く感じる。 ・ほっとルームが効果的に運用されていることは、とてもよいことだと感じた。
	すべての児童が安心して学べる学校づくりを推進する。(児童、保護者、地域とのゆるぎない信頼関係の構築)	・新たな不登校児童を生まない学校、教育環境(ほっとルーム)を整備する。(発達支持的生徒指導推進) ・不登校(傾向)児童、保護者との関係性の構築と支援体制を充実する。 ・保護者への情報提供、相談機関、関係機関の情報を積極的に提供する。	・不登校(傾向)児童の出席状況、姿(変容) ・不登校(傾向)児童保護者の声、姿(変容) ・教室にいられない、教室での学びにない子供たちの姿(変容)	B	・ほっとルームの整備が進み、不登校(傾向)児童の状況は改善した。 ・不登校(傾向)児童保護者との連携は管理職も積極的に関わった。 *アンケート結果(前掲)			